

事業評価シート（平成24年度分）

1. 事業の位置付け

事務事業名	学校給食地場産野菜等使用推進事業		
事業担当	学校教育課 学校給食課		
事業種類	○ハード ●ソフト		
総合計画の位置付け	'02	基本目標2 子育て、長寿を楽しみ、安心していきいきと暮らせるまち	
	'03	③<健康・安心・福祉力>その人らしく安心して生活を支援する	
	'02	2 多様な地域課題に的確かつ総合的に対応する地域密着のサービスを充実する	
根拠法令等			
対象・受益者	児童	事業期間	
委託、協働	【委託： 3セク・財団 企業 NPO その他】【協働： 】		
目的・目標		事業の概要	
安心・安全な給食が提供されています。		児童に安心・安全な給食を提供するため、地元農家が生産した新鮮な野菜、平塚漁港で水揚げされた魚や水産加工品等地場産品の使用を推進します。	

2. 事業の検証

活動指標①	指標名	地場産野菜使用品目数			単位	品目
	説明・算定式					
		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	
	目標	24	25	25	25	
	実績	24	22	27		
活動指標②	指標名				単位	
	説明・算定式					
		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	
	目標					
	実績					
成果指標①	指標名	地場産野菜使用率			単位	%
	説明・算定式	地場産野菜使用量 ÷ 年間総野菜使用量 × 100				
		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	
	目標	22.5	22.5	22.5	22.5	
	実績	20.4	21.9	18.8		
成果指標②	指標名				単位	
	説明・算定式					
		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	
	目標					
	実績					
進捗状況	①：予定どおり					
	遅れている理由					
平成24年度の主な取組と成果						
<p>学校給食物資選定委員会で決められた平塚産野菜（月平均で4～5品目）を使用し、できる限り平塚産野菜を使用するよう努め、安心・安全な給食の提供を行いました。また、野菜のほか、鰯、サバ、いわし等の水産物や加工品についても給食に使用し提供しました。なお、使用品目は増加したものの、使用（重量）率は、平塚産の玉ねぎ、大根、キャベツ等が23年度と同じ量の確保・納品ができなかったため、低下しました。</p>						
平成24年度の検証結果	B：おおむね成果があがった					

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 市民ニーズ <input type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	外国野菜の残留農薬等安全性が問題となっている中で安心・安全で新鮮な食材の選定は重要です。	<input checked="" type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 低
	有効性	<input type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input checked="" type="checkbox"/> その他	児童に安心・安全な給食の提供を知る上で有効性は高いです。	<input checked="" type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 低
	妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	児童の給食を提供する上で安心・安全な食材を使用することは当然であることから妥当性は高いです。	<input checked="" type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 中 <input type="radio"/> 低
	効率性	<input type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input checked="" type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input type="checkbox"/> その他	見積合わせで決定しているため、十分にコスト削減を行っており、現状での効率性は高いです。	<input checked="" type="radio"/> 高 <input type="radio"/> 中 <input type="radio"/> 低
今後に向けた課題の分析 平塚産野菜の使用に努めるとともに、水産、畜産等の地場産食材の使用を推進するためには、安定した納入システムや必要量の確保が今後の課題です。				

3. 年度別事業内容・決算額

(単位:千円)

		平成22年度 決算額	平成23年度 決算額	平成24年度 決算額	平成25年度 予算額
事業内容		地場産品の使用推進	地場産品の使用推進	地場産品の使用推進	地場産品の使用推進
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0
	起債	0	0	0	0
	その他 特財	0	0	0	0
	一般財源	0	0	0	0
事業費 (A)		0	0	0	0
執行率 (%)		—	—	—	
内訳	職員 (人)	0.95	0.95	0.75	0.75
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00
人件費 (B)		7,847	7,699	6,012	5,961
フルコスト (A+B)		7,847	7,699	6,012	5,961

4. 今後の事業展開(担当課としての提案)

平成26年度の取組方針 食材の選定においては、引き続きできるだけ平塚産野菜を使用するように努めていきます。
課長コメント 安心・安全な給食を安定的に提供する中で平塚産品の使用を推進します。また、地場産野菜や水産物等を活用した農家や漁師と児童が交流をもつ「ふれあい給食」を今後も継続して実施していきたいと考えています。